

3年ぶりの開催 大ト協 トラックの日行事 「トラックフェスタ2022」

も、皆さんの生活と経済を支えるため、エッセンシャルワーカーとして昼夜走り続けているのがトラック。フェスタではトラック輸送の社会的役割や重要性をご理解いただくとともに、交通安全意識の高揚の思いも込めている。お子様からご年配の方まで、1日楽しんでいただけたら」と述べた。

【大阪】大ト協は2日、吹田市の万博記念公園でトラックの日行事「トラックフェスタ2022」(後援:近畿運輸局・府・府警察・吹田市)を開催。3年ぶりの開催となった同フェスタは快晴と恵まれ、多くの家族連れなどが訪れた。

開会のあいさつで中川才助会長は、「コロナ禍において

カー、ミニSLの乗車体験などのブースが設けられた。子どもたちは、トラック乗車体験や子供運転免許証の交付ブースなどを楽しんだ。

続いて、近畿運輸局の田内文雄大阪運輸支局長は、「トラック運送業界は人材不足に苦しんでいる。国交省や関係機関が労働環境の改善や取引環境の適正化などを、物流の維持に関する取り組みを進めている。本日はトラック運送事業についてご理解を深めていただけたら」と、吹田市長の後藤圭二氏は、「皆さんの働きが一般市民の生活を支えている。高齢化が進む中で、若い方が多く登壇されており希望を感じた」とそれぞれ述べた。

会場では各支部によるフリーマーケットやキッチン

チームやチャリディングのパフォーマンスが行われ、終盤には関西のライブハウスを中心に音楽活動を行う健康さんが登場。Official髭男dismの「宿命」やオリジナルソングを含む4曲を披露し、会場を大いに盛り上げた。(木村麻理奈)

ネットシートを作成するコーナーが設けられた。ヘルスケアネットワーク(OC H I S)のブースでは、睡眠時無呼吸症候群(SAS)のスクリーニング検査で使われるパルスオキシメーターの展示を行ったほか、女性に乳がん触診補助具の「ブレストケアグラブ」を渡し、乳がんの早期発見を呼びかけた。また保健師による血圧測定と健康相談も行われた。

ステージイベントではキッズダンス



フェスタの様子 (レイアウト:早瀬勇一)